

下越森林管理署村上支署長が語る

支署長 金子里志

1 管内の概要

村上支署は、下越森林計画区の北部に位置する村上市、関川村、粟島浦村（国有林はない）の1市2村を管轄しています。国有林（官行造林を含む）の面積は、約6万6千haで、支署と4森林事務所（村上/女川<sup>おんながわ</sup>、塩野町、館腰<sup>せきだに</sup>、関谷）で管理経営を行っています。

当支署管内は、新潟県の最北部に位置し、気候は日本海型気候に属する多雪地帯であり、三面地区や大石地区、女川地区の奥地山岳部には雪崩等のため基岩の露出している箇所が多く見られます。北は山形県庄内地方、東は山形県置賜地方と接し、南は下越森林管理署の管轄になります。磐梯朝日国立公園やサケが遡上する三面川などを擁しているほか、新潟県下において最も林業の盛んな地域です。

また、新潟市から青森市に至る日本海沿岸東北自動車道が、新潟県と山形県の県境部の工事に着手しており、完成後は日本海側の災害対応や安定した物流の要として期待されています。

2 国有林の特徴

東部の朝日山地一帯は、磐梯朝日国立公園とともに朝日山地森林生態系保護地域として森林生態系の維持・保存に務めているほか、村上市朝日地区では森林環境教育の場や市民の森林として親しまれています。



朝日岳（1,814m）



杵差岳(1,636m)

西部の海岸林は、防風保安林と保健保安林に指定されているとともに、市民のいこいの場として自然観察教育林「瀬波いこいの森」、「お幕場いこいの森」にも設定されています。このことから、地域の意見・要望を踏まえながら、松くい虫の被害防除対策、海岸防災林造成工事（護岸工事）等による保安林（海岸林）整備、レクリエーションの森としての整備・管理に取り組んでいます。



松くい虫防除（地上散布）



お幕場海岸の防災林造成工事

また、天然林面積は53,594 haで、全面積の約81%を占めています。平野丘陵地帯は、アカマツ、コナラ、ミズナラを主体として、クリ、カエデ類が混生する幼齢、壮齢の二次林です。山岳地帯は、ブナを主体にミズナラ、クリ、トチノキ、ケヤキ等の混生した林分で、尾根筋にはアカマツ、ヒメコマツ、ネズコ等が点生しています。

人工林面積は5,381 haで、国有林面積の約8%に過ぎませんが、樹種別ではスギ67%、アカマツ12%、その他21%となっており、主・間伐適齢期の林分が多い状況です。スギは、奥地山岳地帯を除く広範囲に植栽されており、全般に良好な生育状況です。一部には雪による根曲がり、幹割れ等の被害が見られますが、産出されるスギ材は地域の建築用・木質バイオマス発電用に大きな期待がされています。



山元土場



令和4年度第1回の素材公売

### 3 国民参加の森づくり

#### (1) 瀬波夕日の森

平成8年度から「白砂青松」の美しい松林再生活動が始まり、平成12年3月には村上市長と協定を締結し、約76haを市民による自主的な森林整備活動の場として設定しています。

現在では、瀬波温泉の旅館経営者でつくる「潮風会」をはじめ、瀬波地区区長会、新潟県立村上中等教育学校生徒、一般ボランティアの参加の下、毎年の恒例行事として松林再生に向けた森林づくりが行われています。

#### (2) さけの森林

三面川のサケを守るためには、「豊かな川」、「豊かな海」そしてそれを生み出す「豊かな森林」が必要という考えから、平成11年11月11日（サケの日）に「さけの森林づくり推進協議会」が設立されました。

翌年10月から森林整備活動が開始されました。その活動の輪が年々広がり、今では100名を超す参加者となり、ブナ稚幼樹の刈出、歩道整備、ブナ植樹、森林教室などが行われています。

平成19年11月11日には、森・川・海が一体となった保全活動が評価され、滋賀県で行われた「第27回全国豊かな海づくり大会」で、漁場保全部門での大会会長賞を受賞しています。



「瀬波夕日の森」森林整備



「さけの森林」ブナ植栽

## 4 民国連携

### (1) 森林共同施業団地の設定

村上市笹平地区において、森林の多面的機能の高度発揮と資源の循環利用を図るため、協定者（下越流域森林・林業活性化センター、(有)阿部林業工務店、村上支署）が連携・協力して森林の団地化を推進し、合理的な路網の整備と効率的な森林施業の実施を内容として平成25年2月に新潟県内で初めての森林共同施業団地協定を締結しました。

平成27年3月には協定を延長するとともに、新たに関川村内須川地区において協定者（下越流域森林・林業活性化センター、新潟県農林公社、関川村森林組合、村上支署）による新たな協定を締結しました。今後、両地区の対象森林において、森林作業道の開設や間伐などを民有林と国有林が一体となり取り組んでいくことにしています。

また、毎年行われる「民国連携森林整備推進協議運営会議」では、森林共同施業団地内の路網整備状況や列状間伐の実施状況の現地説明、低コスト造林等に関する現地検討会、林業従事者の育成に向けた取組等についての意見交換・情報交換を行っています。



民国連携森林整備推進協議運営会議



現地検討会

### (2) 技術講習会の実施

局技術普及課から4名の職員を招き、当支署、新潟県村上地域振興局、村上市、関川村下越署による技術講習会（地上型レーザ計測装置、ドローン）を令和3年度に実施しました。

技術講習会の参加者からは、「このような機会はなかなか無いので、大変勉強になった」との声がありました。また、令和4年4月下旬に、新潟県村上地域振興局、村上市、関川村と当支署による情報交換会を行う予定です。



技術講習会（室内）



技術講習会（野外）

### （3）「利根沼田地域林業成長産業化推進協議会」との意見交換

令和3年11月に、利根沼田地域林業成長産業化推進協議会の会長である群馬県川場村の外山京太郎村長ほか13名が来署し、村上市とともに森林施業全般について意見交換を行いました。



川場村長の挨拶



村上市農林水産課による説明

## 5 新規林業就業者の育成

管内の村上市と関川村は、新潟県内の素材生産量の約44%を占めており、新潟県内では最も林業が盛んな地域である一方、森林環境の保護にも関心の高い地域です。また、下越流域森林・林業活性化センターや新潟北部地域協議会、NPO等による組織活動も活発に行われ、森林の保護と整備とともに、高校生等を対象に体験林業「森の仕事体験ツアー

WOOD JOB！」を開催するなど、新規林業就業者の獲得にも地域を挙げて取り組んでいます。当支署においても、毎年度、村上市立村上第一中学校の生徒による職場体験を3日間実施しています。



治山事業の職場体験



収穫調査の職場体験

## 6 村上支署の新庁舎

昭和36年に建設された当支署の旧庁舎は、60年に及ぶ年月により老朽化が著しいため、同一敷地内で令和3年2月に新庁舎（木造2階建、建築面積333.73平方メートル、延床面積446.79平方メートル）へ建て替えられました。

庁舎の周辺は、国指定史跡「村上城址」、国指定重要文化財「若林家住宅（武家屋敷）」等を擁する地域となっています。このため新庁舎の外装は、色彩に配慮し、村上市内に見られる城下町の風情漂う黒板塀がイメージされています。腰壁には豆砂利を配するほか、勾配屋根や格子窓等のデザインを取り入れたものとなっています。

庁舎内部は、事務室、ホール、会議室等の腰壁や天井の一部を杉羽目板張りとし、階段の部材にはCLT材（1.56立方メートル）を採用するなど、87.8立方メートルの国産材を使用しています。事務室内には建築構造上省くことのできない柱が2本露出していますが、これらを丸柱とすることにより、木の持つ柔らかな雰囲気が醸し出されています。木材には自然の色合いを生かせるように彩色等を行わず、来客者に木材の表情を感じていただけるものとなっています。



新庁舎の外観



CLTを用いた新庁舎の内部